

定期作況報告（最終）

（第7号 平成22年11月20日現在）
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

《平成21年》

11月：平年に比べ最高気温は上旬が0.1℃高く、中旬は1.6℃低く、下旬が平年並みであった。最低気温は上、中旬が各々1.9℃、0.8℃低く、下旬は0.6℃高かった。平年に比べ降水量は上、下旬が各々6.6mm、25.2mm少なく、中旬が4.3mm多かった。日照時間は上、中、下旬とも各々2.0時間、2.0時間1.5時間少なかった。

12月：平年に比べ最高気温は上、下旬が各々1.7℃、1.1℃高く、中旬が1.1℃低かった。最低気温は上旬が1.0℃高く、中、下旬が各々2.3℃、0.4℃低かった。平年に比べ降水量は上、中、下旬とも各々8.7mm、4.8mm、0.7mm少なかった。日照時間は上、中、下旬とも各々4.9時間、10.1時間、5.1時間多かった。

《平成22年》

1月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々2.7℃、0.3℃、2.8℃高かった。最低気温も上、中、下旬とも各々2.9℃、0.6℃、3.3℃高かった。平年に比べ降水量は上旬が5.0mm少なく、中、下旬が各々1.1mm、15.1mm多かった。日照時間は上、下旬が各々12.2時間、21.0時間少なく、中旬が0.8時間多かった。

2月：平年に比べ最高気温は上、中旬が各々1.2℃、0.5℃低く、下旬が4.5℃高かった。最低気温は上、中旬が各々1.6℃、2.7℃低く、下旬が3.1℃高かった。平年に比べ降水量は上旬が1.8mm多く、中、下旬が各々14.7mm、7.0mm少なかった。日照時間は上、下旬が各々17.5時間、10.9時間少なく、中旬が18.1時間多かった。

3月：平年に比べ最高気温は上、下旬が各々0.4℃、2.5℃低く、中旬が0.7℃高かった。最低気温は上、下旬が各々1.3℃、4.2℃低く、中旬が0.5℃高かった。平年に比べ降水量は上旬が7.0mm少なく、中、下旬が各々18.6mm、12.8mm多かった。日照時間は上、中、下旬とも各々6.5時間、18.6時間、8.6時間少なかった。

4月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々0.1℃、4.7℃、3.7℃低かった。最低気温も上、中、下旬とも各々0.2℃、2.1℃、0.6℃低かった。平年に比べ降水量は上、中旬が各々4.5mm、25.5mm多く、下旬が2.6mm少なかった。日照時間は上、中、下旬とも各々2.0時間、3.2時間、14.7時間少なかった。

5月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々0.6℃、0.1℃、1.2℃低かった。最低気温は上旬が平年並みで、中、下旬が各々1.8℃、1.9℃低かった。平年に比べ降水量は上旬が5.2mm多く、中、下旬が各々3.1mm、19.6mm少なかった。日照時間は上旬が3.4時間少なく、中、下旬が各々14.9mm、31.9mm多かった。

6月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々0.6℃、4.5℃、4.0℃高かった。最低気温は上旬が0.4℃低く、中、下旬が各々3.9℃、4.6℃高かった。平年に比べ降水量は上旬が8.1mm少なく、中、下旬が各々2.5mm、39.2mm多かった。日照時間は上、中、下旬とも各々13.7時間、35.0時間、20.8時間多かった。

7月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々1.3℃、1.2℃、0.2℃高かった。最低気温も上、中、下旬とも各々4.1℃、1.9℃、3.1℃高かった。平年に比べ降水量は上、下旬とも各々9.9mm、7.2mm多く、中旬が27.2mm少なかった。日照時間は上、下旬が各々13.8時間、21.0時間少なく、中旬が15.5時間多かった。

8月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々1.3℃、2.2℃、2.9℃高かった。最低気温も上、中、下旬とも各々1.8℃、1.3℃、2.9℃高かった。平年に比べ降水量は上旬が8.0mm多く、中、下旬が2.7mm、20.5mm少なかった。日照時間は上、下旬が各々16.2時間、5.0時間少なく、中旬が15.8時間多かった。

9月：平年に比べ最高気温は上、中旬が各々2.4℃、3.4℃高く、下旬が1.2℃低かった。最低気温は上、中旬が各々2.1℃、2.1℃高く、下旬が0.3℃低かった。平年に比べ降水量は上、中、下旬とも各々8.8mm、42.5mm、15.2mm少なかった。日照時間は上、中旬が各々5.9時間、16.5時間多く、下旬が15.8時間少なかった。

10月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々0.9℃、0.5℃、0.6℃高かった。最低気温は上、中旬が各々1.6℃、1.5℃高く、下旬は1.4℃低かった。平年に比べ降水量は上、下旬が各々2.9mm、11.0mm少なく、中旬が3.6mm多かった。日照時間は上、下旬が各々0.3時間21.1時間多く、中旬は2.0時間少なかった。

根雪終は4月12日で平年より2日遅く、積雪期間は平年より7日短かった。耕鋤始は4月26日で平年より6日遅かった。晩霜は平年より3日遅い5月15日である（表1）。

平成21年11月から平成22年10月までの気象は表2の通りである。

表1 季節

	初霜 (月日)	降雪始 (月日)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)
本年	9月21日	10月30日	12月2日	4月12日	132	4月14日	4月26日	5月15日
平年	10月12日	10月25日	11月23日	4月10日	139	4月25日	4月20日	5月12日
比較	△21	5	9	2	△7	△11	6	3

注1) 本年は平成21～22年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布圃場の観測値。平年は過去10か年の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川地方気象台による旭川市の観測値。平年は過去10か年の平均値。

4) △印は平年に比べて早いあるいは短いを示す。

表2 気象表(旬別)

年 月 旬	最高気温(°C)			最低気温(°C)			平均気温(°C)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
2009 上	9.1	9.0	0.1	-0.6	1.3	▲1.9	3.7	4.8	▲1.1	32.5	39.1	▲6.6	7	6	1	23.4	25.4	▲2.0
11 中	2.8	4.4	▲1.6	-2.5	-1.7	▲0.8	0.1	1.2	▲1.1	38.5	34.2	4.3	7	7	0	16.7	18.7	▲2.0
下	2.4	2.4	0.0	-3.6	-4.2	0.6	-0.2	-1.0	0.8	16.0	41.2	▲25.2	3	7	▲4	17.7	19.2	▲1.5
12 上	0.5	-1.2	1.7	-6.8	-7.8	1.0	-3.0	-4.2	1.2	24.5	33.2	▲8.7	6	8	▲2	22.0	17.1	4.9
中	-3.8	-2.7	▲1.1	-11.9	-9.6	▲2.3	-7.3	-5.7	▲1.6	24.0	28.8	▲4.8	7	7	0	23.1	13.0	10.1
下	-2.6	-3.7	1.1	-11.6	-11.2	▲0.4	-6.2	-7.0	0.8	25.0	25.7	▲0.7	9	7	2	21.5	16.4	5.1
2010 上	-1.2	-3.9	2.7	-9.5	-12.4	2.9	-4.7	-7.6	2.9	14.0	19.0	▲5.0	5	6	▲1	8.5	20.7	▲12.2
1 中	-4.9	-5.2	0.3	-13.4	-14.0	0.6	-8.2	-9.1	0.9	18.5	17.4	1.1	5	6	▲1	24.4	23.6	0.8
下	-1.6	-4.4	2.8	-10.1	-13.4	3.3	-5.1	-8.4	3.3	34.5	19.4	15.1	8	6	2	11.8	32.8	▲21.0
2 上	-5.0	-3.8	▲1.2	-15.0	-13.4	▲1.6	-9.1	-8.1	▲1.0	16.5	14.7	1.8	8	6	2	19.3	36.8	▲17.5
中	-3.8	-3.3	▲0.5	-15.6	-12.9	▲2.7	-9.2	-7.6	▲1.6	7.5	22.2	▲14.7	3	6	▲3	51.0	32.9	18.1
下	2.8	-1.7	4.5	-9.1	-12.2	3.1	-2.3	-6.5	4.2	11.0	18.0	▲7.0	3	5	▲2	25.7	36.6	▲10.9
3 上	-0.7	-0.3	▲0.4	-11.7	-10.4	▲1.3	-5.5	-4.9	▲0.6	11.0	18.0	▲7.0	4	5	▲1	38.9	45.4	▲6.5
中	2.6	1.9	0.7	-6.9	-7.4	0.5	-2.0	-2.3	0.3	37.0	18.4	18.6	7	5	2	21.9	40.5	▲18.6
下	1.6	4.1	▲2.5	-8.4	-4.2	▲4.2	-2.7	0.1	▲2.8	26.0	13.2	12.8	6	5	1	42.8	51.4	▲8.6
4 上	7.1	7.2	▲0.1	-2.9	-2.7	▲0.2	2.6	2.3	0.3	18.0	13.5	4.5	4	4	0	49.8	51.8	▲2.0
中	6.2	10.9	▲4.7	-2.2	-0.1	▲2.1	1.8	5.3	▲3.5	44.5	19.0	25.5	6	4	2	50.5	53.7	▲3.2
下	8.8	12.5	▲3.7	0.5	1.1	▲0.6	4.4	6.8	▲2.4	15.0	17.6	▲2.6	4	3	1	33.5	48.2	▲14.7
5 上	15.9	16.5	▲0.6	3.5	3.5	0.0	9.4	9.9	▲0.5	32.5	27.3	5.2	5	4	1	54.6	58.0	▲3.4
中	18.1	18.2	▲0.1	4.3	6.1	▲1.8	10.9	12.0	▲1.1	18.5	21.6	▲3.1	2	4	▲2	72.3	57.4	14.9
下	19.0	20.2	▲1.2	6.1	8.0	▲1.9	12.2	13.9	▲1.7	9.5	29.1	▲19.6	2	4	▲2	90.2	58.3	31.9
6 上	22.1	21.5	0.6	9.7	10.1	▲0.4	15.4	15.6	▲0.2	13.5	21.6	▲8.1	2	3	▲1	66.8	53.1	13.7
中	27.1	22.6	4.5	15.4	11.5	3.9	20.7	16.8	3.9	23.0	20.5	2.5	3	3	0	84.9	49.9	35.0
下	28.4	24.4	4.0	17.7	13.1	4.6	22.3	18.4	3.9	66.5	27.3	39.2	4	3	1	74.8	54.0	20.8
7 上	26.2	24.9	1.3	18.4	14.3	4.1	21.5	19.2	2.3	47.0	37.1	9.9	4	3	1	31.6	45.4	▲13.8
中	25.9	24.7	1.2	17.5	15.6	1.9	21.3	19.7	1.6	41.0	68.2	▲27.2	3	5	▲2	52.2	36.7	15.5
下	26.5	26.3	0.2	19.4	16.3	3.1	22.3	20.8	1.5	73.5	66.3	7.2	6	5	1	29.3	50.3	▲21.0
8 上	28.4	27.1	1.3	19.6	17.8	1.8	23.9	22.1	1.8	50.5	42.5	8.0	5	4	1	33.2	49.4	▲16.2
中	28.6	26.4	2.2	17.7	16.4	1.3	22.7	21.0	1.7	41.0	43.7	▲2.7	4	3	1	68.2	52.4	15.8
下	27.4	24.5	2.9	17.6	14.7	2.9	22.2	19.3	2.9	31.5	52.0	▲20.5	5	4	1	43.8	48.8	▲5.0
9 上	25.8	23.4	2.4	15.3	13.2	2.1	20.2	17.9	2.3	52.0	60.8	▲8.8	4	5	▲1	53.1	47.2	5.9
中	25.1	21.7	3.4	13.1	11.0	2.1	18.2	16.0	2.2	2.0	44.5	▲42.5	1	4	▲3	64.5	48.0	16.5
下	17.6	18.8	▲1.2	7.2	7.5	▲0.3	12.2	12.8	▲0.6	21.0	36.2	▲15.2	5	5	0	34.6	50.4	▲15.8
10 上	18.0	17.1	0.9	8.2	6.6	1.6	12.7	11.4	1.3	37.5	40.4	▲2.9	5	6	▲1	43.5	43.2	0.3
中	15.3	14.8	0.5	5.4	3.9	1.5	10.0	9.0	1.0	33.0	29.4	3.6	7	6	1	42.3	44.3	▲2.0
下	12.2	11.6	0.6	0.9	2.3	▲1.4	6.1	6.7	▲0.6	22.5	33.5	▲11.0	0	6	▲6	56.8	35.7	21.1

表3 農耕期間積算値(5月~9月)

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(hr)
本年	2810	523	854
平年	2608	598	759
比較	202	▲75	95

- 1) 比布アメダス観測値。
- 2) 平年値は比布アメダス前10カ年の平均値。
- 3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲：良

事 由：出芽器使用による出芽の揃いは良好であった。育苗期間中は4月中・下旬5月上旬ともに低温寡少に経過し、5月中旬も低温となったが、日照時間は平年より多かった。移植時の草丈は平年に比べ「ほしのゆめ」が0.6cm低く、「きらら397」が0.7cm「ななつぼし」は1.6cm高かった。主稈葉数は平年並から0.2枚少なかった。地上部乾物重は平年より軽く、苗素質は平年並からやや劣った。

移植時からの好天により活着は良好であったが、5月第6半旬の低温と6月第1半旬の低温、寡少により生育は大きく停滞し、さらに同時期の冷たい強い風により葉先枯れが発生した。

6月第2半旬から天候は回復し、高温、多照に経過したことから、生育は回復し、幼穂形成期は平年に比べ1日早かった。

6月下旬の高温・多照、7月上・中旬の高温により生育進度はさらに進み、止葉期、出穂期ともに平年に比べ6～7日早かった。穂揃い日数は平年に比べ「ほしのゆめ」が3日、「きらら397」「ななつぼし」は1日長かった。

最終止葉葉数は平年に比べ「ほしのゆめ」が1枚、「ななつぼし」は0.9枚、「きらら397」は0.6枚少なかった。稈長は平年に比べ「ほしのゆめ」が1.3cm、「ななつぼし」が0.4cm短く「きらら397」は2.3cm長かった。穂長は「ほしのゆめ」が平年並みであったが「きらら397」は0.6cm、「ななつぼし」も0.9cm平年より短かった。㎡当たり穂数は平年対比「ほしのゆめ」が89%「きらら397」が95%で少なく、「ななつぼし」は99%で平年並であった。

登熟は7月下旬から8月上旬の日照不足により前期の登熟が劣り、登熟後期では穂基部の登熟が進まなかったため、登熟日数が平年より5～6日長くかかり、成熟期はほぼ平年並となった。

〔籾数〕一穂籾数は平年対比「きらら397」が106%で平年より多く、「ほしのゆめ」は94%「ななつぼし」が97%でやや少なかった。㎡当たり籾数（㎡当たり穂数×一穂籾数）は平年対比「きらら397」がほぼ平年並であったが、「ほしのゆめ」は83%「ななつぼし」は96%で少なかった。

〔稔実歩合・稔実籾数〕稔実歩合はいずれの品種も平年より高く、平年対比103～107%であった。㎡当稔実籾数（㎡当たり籾数×稔実歩合）は平年対比「ほしのゆめ」は86%と少なかったが、「きらら397」は107%と多く、「ななつぼし」は102%でやや多かった。

〔登熟歩合・㎡当たり登熟籾数〕登熟歩合は平年対比「ななつぼし」が98%とやや低かったが、「ほしのゆめ」「きらら397」は平年並みであった。㎡当たり登熟籾数（㎡当たり籾数×登熟歩合）は平年対比「ほしのゆめ」は84%、「ななつぼし」が94%で平年より少なく、「きらら397」は101%で平年並みであった。

〔精玄米千粒重〕いずれの品種も平年より1g以上重く、平年対比「ほしのゆめ」は106%、「きらら397」は104%、「ななつぼし」は105%であった。

〔精玄米重〕粒厚1.90mm以上の収量は平年対比で108～115%と多収であった。

〔検査等級〕いずれの品種も腹白粒、心白粒の多発により、検査等級は平年より劣った。

以上、㎡当稔実籾数は平年よりやや多く、登熟歩合がほぼ平年並みで、登熟日数は長かったものの登熟は良好で精玄米千粒重が平年より重く多収となった。したがって、本年の作況は「良」である。

表4 平成22年度 水稲の生育および収量

		品種・苗	成苗ほしのゆめ		成苗きらら397		成苗ななつぼし		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
生育期	播種期	(月・日)	4.14	4.13	4.14	4.13	4.14	4.13	
	移植期	(月・日)	5.19	5.19	5.19	5.19	5.19	5.19	
	幼穂形成期	(月・日)	6.22	6.23	6.23	6.24	6.21	6.22	
	止葉期	(月・日)	7.04	7.11	7.07	7.13	7.05	7.11	
	出穂期	(月・日)	7.16	7.22	7.18	7.24	7.16	7.23	
	穂揃日数	(日)	9	6	7	6	8	7	
	成熟期	(月・日)	9.03	9.04	9.11	9.11	9.08	9.09	
節	登熟日数	(日)	49	44	55	49	53	48	
	生育日数	(日)	142	144	150	151	147	149	
育苗	草丈	(cm)	11.0	11.6	12.3	11.6	13.5	11.9	
	葉数	(枚)	3.7	3.9	4.0	4.2	4.0	4.0	
	茎数	(本)	1.8	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	
	第1葉鞘高	(cm)	2.7	2.6	2.5	2.5	2.7	2.6	
	地上部乾物重	(g/100本)	3.02	3.73	3.67	3.92	3.81	3.90	
本田生育	主葉数	6月10日	(枚)	6.2	6.6	6.6	7.1	6.4	6.8
		6月20日	(枚)	7.8	8.1	8.3	8.7	8.0	8.3
		6月30日	(枚)	9.0	9.3	9.8	9.8	9.3	9.6
		7月10日	(枚)	9.1	10.0	10.5	10.9	9.6	10.4
		7月20日	(枚)	9.1	10.1	10.5	11.1	9.6	10.5
		7月30日	(枚)	9.1	10.1	10.5	11.1	9.6	10.5
		止葉葉数	(枚)	9.1	10.1	10.5	11.1	9.6	10.5
m ² 当たり	茎数	6月10日	(本)	203	290	220	308	198	266
		6月20日	(本)	590	614	595	648	529	543
		6月30日	(本)	740	839	750	838	699	747
		7月10日	(本)	714	863	681	861	681	755
		7月20日	(本)	715	813	683	777	674	742
		7月30日	(本)	715	774	684	740	674	685
		草丈	草丈	6月10日	(cm)	24.6	26.1	21.7	25.2
6月20日	(cm)			36.9	35.5	34.3	33.1	38.7	38.0
6月30日	(cm)			54.2	49.7	51.6	46.8	56.0	52.3
7月10日	(cm)			73.2	62.6	66.6	58.6	74.1	65.9
7月20日	(cm)			81.8	76.8	78.6	72.0	83.3	81.2
7月30日	(cm)			81.3	81.8	81.2	78.4	85.1	86.1
本田生育	稈長			(cm)	61.8	63.1	62.3	60.0	65.8
	穂長	(cm)	16.0	15.9	16.3	16.9	16.1	17.0	
	穂数	(本/m ²)	673	759	661	693	650	658	
	有効茎歩合	(%)	91.0	87.9	96.6	80.5	93.0	87.2	
収量構成要素	一穂籾数	(粒)	39.8	42.4	45.0	42.5	49.3	50.9	
	m ² 当籾数	(×1000)	26.8	32.2	29.7	29.4	32.0	33.5	
	稈実歩合	(%)	93.7	91.1	95.6	90.0	96.8	90.5	
	m ² 当稈実籾数	(×1000)	25.1	29.3	28.4	26.5	31.0	30.3	
	登熟歩合	(%)	85.5	85.2	84.1	84.1	85.2	86.5	
	m ² 当登熟籾数	(×1000)	22.9	27.4	25.0	24.7	27.3	29.0	
	稈実籾登熟歩合	(%)	91.2	93.5	88.0	93.4	88.0	95.6	
	精玄米千粒重	(g)	23.5	22.1	24.0	23.0	23.2	22.1	
	籾摺歩合	(%)	81.3	78.6	80.8	80.2	81.6	81.5	
	屑米歩合	(%)	2.4	4.6	2.2	2.4	1.9	2.2	
収量	藁重	(kg/10a)	562	642	568	640	569	670	
	精籾重	(kg/10a)	770	691	824	720	819	757	
	籾藁比	(%)	137	108	145	113	144	113	
	精玄米重	(kg/10a)	626	543	666	578	668	617	
	収量比	(%)	115	—	115	—	108	—	
検査等級	(等)	2下	2上	2下	1下	2下	1下		

注1) 平年値は平成15～21年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 精玄米千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

(2) 秋まき小麦 : 不良

事由：播種期は平年より9日遅い9月16日であった。越冬前の草丈は平年より短く、茎数が少なく、葉数は少なかった。根雪始は平年より9日遅く、根雪終は平年より2日遅かったため、積雪期間は132日で平年より7日短かった。雪腐病の発病は少なく越冬茎歩合は平年よりやや高かった。播種が平年より遅かったため、5月20日の調査では茎数が平年を下回っていたが、概ね適正な生育量を確保できていた。出穂期は平年並であったが、6月中旬以降高温に経過したため、成熟期は平年より4日早く、登熟期間が短かった。稈長、穂長、穂数は平年を下回り、千粒重は平年よりやや軽かった。この結果、子実重は平年比71%と低収となった。リットル重、検査等級は平年並であった。

したがって、本年の作況は不良である。

表5 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		ホ ク シ ン		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	9.16	9.7	9
出穂期	(月日)	6.10	6.10	0
成熟期	(月日)	7.14	7.18	△ 4
越冬茎歩合	(%)	92.5	90.4	2.1
雪腐病発病度		15.0	37.1	▲22.1
葉数 (枚)	H21. 10. 20	4.7	5.9	▲1.2
草 丈 (cm)	H21. 10. 20	18.0	32.2	▲14.2
	H22. 5. 20	37.3	37.8	▲ 0.5
	H22. 6. 20	84.8	90.6	▲ 5.8
茎 数 (本/ ㎡)	H21. 10. 20	840	1706	▲866
	H22. 5. 20	1034	1183	▲149
	H22. 6. 20	606	695	▲ 89
成 熟 期	稈 長 (cm)	74	83	▲ 9
	穂 長 (cm)	8.1	8.6	▲ 0.5
	穂 数(本/㎡)	549	651	▲ 102
子実重	(kg/10a)	462	649	▲187
同上	平年比 (%)	71	100	▲ 29
リットル重	(g)	782	784	▲ 2
千粒重	(g)	36.5	37.0	▲0.5
検査等級	(等)	2中	2中	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成20年、21年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(3) 春まき小麦 : 不良

事由：根雪終は平年より2日遅い4月12日であり、4月中下旬は低温多雨少照傾向に推移したことから、土壌の乾燥が進まず、播種期は平年より7日遅い4月27日、出芽期も平年より7日遅い5月11日であった。5月20日の調査では、草丈、茎数は平年を下回っていた。6月第2半旬以降は高温・多照に経過したため、出穂期はほぼ平年並であった。6月20日の調査では、草丈はほぼ平年並であり、茎数は平年を上回っていた。引き続き高温に経過し、成熟期は平年より2日早かった。成熟期における稈長、穂長はほぼ平年並だが、穂数は平年より多かった。なお、7月2日、7月8日の降雨により倒伏が発生し、7月中下旬の降雨により全面的に倒伏した。

倒伏により子実への転流が劣ったことから、千粒重が平年を下回り、子実重は平年比65%と低収となった。リットル重も平年より軽かった。検査等級は整粒不足と発芽粒により規格外であった。

したがって、本年の作況は不良である。

表6 春まき小麦の生育および収量

品 種 名		春 よ 恋		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	4.27	4.20	7
出芽期	(月日)	5.11	5.4	7
出穂期	(月日)	6.20	6.19	1
成熟期	(月日)	7.26	7.28	△2
草 丈 (cm)	5月20日	11.8	21.5	▲9.7
	6月20日	74.2	76.3	▲2.1
茎 数 (本/m ²)	5月20日	290	653	▲363
	6月20日	774	667	107
成 熟 期	稈 長 (cm)	87	89	▲2
	穂 長 (cm)	8.4	8.5	▲0.1
	穂 数(本/m ²)	564	491	73
総 重	(kg/10a)	864	1,263	▲399
子実重	(kg/10a)	334	517	▲183
同上	平年比 (%)	65	100	▲35
リットル重	(g)	730	798	▲68
千粒重	(g)	33.3	40.1	▲6.8
検査等級	(等)	規格外	2中	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) リットル重、千粒重については、再調査の結果、9月20日作況から値を変更した。

(4) 大 豆 : 不良

事由：播種期は平年より2日早く、出芽期は3日早かった。6月第2半旬以降高温・多照に経過したため、開花期は平年より4日早く、7月の主茎長は平年を大きく上回ったが、7月8日の雨と強風により一部倒伏がみられた。7月下旬以降は、日照時間が少なく、集中的な降雨に何度かみまわれ、圃場は過湿傾向であったが、高温に経過したため、成熟期は著しく早まり平年より12日早かった。成熟期における主茎長は平年より長く、主茎節数および分枝数はほぼ平年並であった。着莢数は平年より少なく、百粒重も平年より1.8g軽かったため、子実重は平年比74%と平年を大幅に下回り、検査等級も平年を下回った。

したがって、本年の作況は不良である。

表7 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.18	5.20	△2
出芽期	(月日)	6.1	6.4	△3
開花期	(月日)	7.6	7.10	△4
成熟期	(月日)	9.9	9.21	△12
主茎長 (cm)	6月20日	18.5	14.6	3.9
	7月20日	67.3	59.2	8.1
	8月20日	66.3	63.5	2.8
	9月20日	-	63.1	-
	成熟期	70.3	63.2	7.1
主茎 節数 (節)	6月20日	5.8	4.6	1.2
	7月20日	10.7	10.3	0.4
	8月20日	10.6	10.6	0.0
	9月20日	-	10.5	-
	成熟期	10.6	10.7	▲0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	5.7	5.9	▲0.2
	8月20日	9.4	6.6	2.8
	9月20日	-	5.9	-
	成熟期	5.6	6.0	▲0.4
着莢数 (個)	8月20日	84	86	▲2
	9月20日	-	77	-
	成熟期	69	78	▲9
子実重	(kg/10a)	327	444	▲117
同上	平年比 (%)	74	100	▲26
百粒重	(g)	36.6	38.4	▲1.8
屑豆率	(%)	1.4	1.1	0.3
検査等級	(等)	3中	2中	-

注1) 平年値は前7か年中、平成18年、21年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(5) 小 豆 : 不良

事 由：播種期は5月24日で平年より1日早かった。播種後は低温に経過したため、出芽期は平年より1～2日遅れたが、出芽は良好であった。出芽後の気温が高かったため、6月20日の調査では、主茎長は平年を上回り、本葉数は平年をやや上回っていた。引き続き高温に経過し、開花期は平年より3日早かった。土壌水分も潤沢にあったことから、生育は旺盛であった。開花後は高温、多雨、少照に経過したことから徒長し、全面的に倒伏したが、開花、着莢数の増加は概ね順調であった。8月下旬は高温少雨に経過したため、成熟期は平年より8～9日早かった。成熟期における主茎長は平年を大きく上回り、分枝数は平年を上回り、着莢数は平年並であった。登熟期間の高温により百粒重は「エリモショウズ」で平年を下回り、「しゅまり」で平年をやや下回ったことから、子実重は「エリモショウズ」で平年比80%、「しゅまり」で同85%と低収であった。屑粒率は平年並からやや上回った。検査等級は「エリモショウズ」で平年並、形質的に劣ることから「しゅまり」は平年より劣った。

したがって、本年の作況は不良である。

表8 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモショウズ			しゅまり		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.24	5.25	△1	5.24	5.25	△1
出芽期	(月日)	6.10	6.8	2	6.9	6.8	1
開花期	(月日)	7.19	7.22	△3	7.19	7.22	△3
成熟期	(月日)	8.27	9.5	△9	8.29	9.5	△7
主茎長 (cm)	6月20日	6.6	4.2	2.4	7.7	5.3	2.4
	7月20日	52.9	24.5	28.4	54.6	25.6	29.0
	8月20日	85.6	58.0	27.6	100.0	65.0	35.0
	成熟期	100	62	38	110	65	45
本葉数 (枚)	6月20日	1.5	1.0	0.5	1.5	1.1	0.4
	7月20日	11.4	8.2	3.2	10.8	7.9	2.9
	8月20日	14.0	12.3	1.7	13.3	11.9	1.4
分枝数 (本/株)	7月20日	6.6	4.7	1.9	8.4	5.1	3.3
	8月20日	5.8	4.6	1.2	6.7	5.4	1.3
	成熟期	5.5	4.3	1.2	7.1	4.9	2.2
着莢数 (個)	成熟期	56	54	2	53	52	1
子実重	(kg/10a)	267	335	▲68	277	324	▲47
同上	平年比 (%)	80	100	▲20	85	100	▲15
百粒重	(g)	10.6	12.4	▲1.8	11.4	11.7	▲0.3
屑粒率	(%)	0.9	1.2	▲0.3	2.4	1.5	0.9
検査等級	(等)	3上	3上	—	4中	3上	—

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、16年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(6) ばれいしょ : やや良

事由：植付期は平年より2日遅かった。低温、寡照により種いもの育芽処理効果が不十分で、萌芽期前後も著しく低温に経過したため、萌芽期は平年より5日遅く、初期生育も遅かった。6月第2半旬以降の高温・多照により、生育は回復傾向にあったが、7月8日の風雨により一部倒伏がみられた。その後的高温、土壌の過湿、寡照により、茎長は平年より10cm以上上回り、倒伏が拡大し、7、8月の上いも収量、でん粉価は平年を下回ったが、枯凋の進行は緩慢で、枯凋期は平年より11日遅かった。その結果、収穫期の株当たり上いも数、上いも平均一個重とも平年をやや上回り、上いも収量は対平年比109%、規格内収量は対平年比115%と多収であった。高温で土壌は過湿傾向にあったため、でん粉価は平年より1.7ポイント低く、塊茎は二次生長、裂開、皮目肥大が多く外観は不良で、内部には中心空洞が多かった。

したがって、本年の作況はやや良である。

表9 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		男 爵 薯		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
植付期	(月日)	5.11	5.9	2
萌芽期	(月日)	6.1	5.27	5
開花始	(月日)	6.26	6.24	2
枯凋期	(月日)	9.15	9.4	11
茎 長 (cm)	6月20日	25.5	34.7	▲9.2
	7月20日	61.6	50.7	10.9
上いも数 (個/株)	7月20日	8.5	9.5	▲1.0
	8月20日	9.4	11.5	2.1
上いも平均 一個重 (g)	7月20日	70	73	▲3
	8月20日	120	106	14
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2640	3111	▲471
	8月20日	4951	5345	▲394
でん粉価 (%)	7月20日	11.5	13.4	▲1.9
	8月20日	13.4	14.9	▲1.5
収 穫 期	上いも数(個/株)	12.6	12.3	0.3
	上いも平均一個重(g)	102	97	5
	上いも収量(kg/10a)	5728	5263	465
	中以上いも収量(kg/10a)	5017	4537	480
	規格内収量(kg/10a)	4809	4198	611
	でん粉価(%)	13.3	15.0	▲1.7
対平年比	上いも収量	109	100	9
	中以上いも収量	111	100	11
	規格内収量	115	100	15

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、19年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内(M~2L、60~260g/個)の収量である。